

「おもしろ読書事典」活用事例 応募フォーム

1 学校についての情報

① 学校名	津山市立弥生小学校	②電話番号	0868-27-1530
-------	-----------	-------	--------------

【活用事例1】

2 取組状況

取組時期、期間等	平成 26 年 2 月		
対象範囲	1. 学級	2. 学年	3. 学校全体 4. その他（具体的に)
教育課程上の位置付け	1. 教科	2. 学級活動	3. 児童会活動 4. 学校行事 5. その他（具体的に)

3 取組の具体

「おもしろ読書事典」P.24 より
『てぶくろ ウクライナ民話』
え エウゲーニー・M・ラチョフ
やく うちだりさこ
福音館書店 資料 別途添付

【活用事例2】

2 取組状況

取組時期、期間等	平成 26 年 5 月		
対象範囲	1. 学級	2. 学年	3. 学校全体 4. その他（具体的に)
教育課程上の位置付け	1. 教科	2. 学級活動	3. 児童会活動 4. 学校行事 5. その他（具体的に)

3 取組の具体

「おもしろ読書事典」P.103 より
No.98 『りんごかもしれない』
作 ヨシタケシンスケ
ブロンズ新社 資料 別途添付

「おもしろ読書事典」活用事例①

「てぶくろ ウクライナ民話」

1年 図工「おはなし だいすき」の題材として活用

●日時と実施クラス

11月（1年生各クラスにて）

●題材の目標

聞いたり読んだりした物語の内容を、想像を働かせ、自分なりに工夫して絵に表す。

●授業の流れ

- ① 担任が物語を読み聞かせ、大好きな場面についてみんなで発表しあう。
- ② 絵に表したい場面を見つけて、表現する。（1）背景 （2）動物 （3）手袋
- ③ 自分や友人がかいた絵を見て、よさを話し合う。

●児童の反応と成果

保育園や幼稚園で聞いたことがあるという児童もいた。繰り返し動物が登場すると「また来たよ。」「もう入らんじゃろう。」「破れそう。」とつぶやいて、次はどうなるか、わくわくしながら聞いていた。「ぴよんぴよんがえる」「おしゃれぎつね」などの名前がついているので、児童が動物を描くときにイメージを膨らませやすかったようだ。雪が降っている様子を、紙粘土で表現する活動にも楽しんで取り組めた。

【児童の作品】



作品鑑賞プリントより

- ・本当に雪が降っているみたい。
- ・手袋に入っているところがいい。

平成 26 年度

弥生小学校図書館便り

平成 26 年 6 月 発行 第 3 号



読書活動実践記録①

司書による読み聞かせ「りんごかもしれない」

●日時と実施クラス

5 月上旬（4 年 4 組）

5 月 12 日（3 年 2 組）

司書がまず 4 年 3 組と 5 年 3 組で読み聞かせを行い、児童の反応から中学年に適していると判断、3 年と 4 年で実施した。

●活動のねらい

- ① 思ったことを言葉で記述し掲示することで、他の人の考えを知る楽しさを味わわせる。
- ② 「ここが面白かった。」「自分だったらこう考える。」など、考えを言葉で表す経験をさせ、読書感想文につなげていく。

●1 時間の流れ

- ① 学校司書が「りんごかもしれない」の絵本を紹介する。
- ② 学校司書が読み聞かせをする。
- ③ 自分だったらどんなふうに「～かもしれない」と考えるか児童に問いかけ、りんごの形のカードに考えたことを記入させる。

●留意点

- ① 読み聞かせ嫌い、本嫌いにさせないために、無理強いをしない。
- ② 児童の考えは否定せず、自由に想像を膨らませながら聞けるようにする。

●児童の反応

○ただのりんごだと思う。

○りんごが町を歩いているかもしれない。

○食品サンプルかもしれない。

○スーパーで売ってあるりんごの中身がからかもしれない。

○これは、もしかしたら、赤いボールにぼうがささっているだけなのかもしれないと思う。

○もしかしたらふつうのりんご
ないし、中から人が出てく
ないと思いました。

○りんごから、いろいろなも
んするかもしれないと思いま
○りんごを食べたら星になる
と思った。

○ほんとうはりんごなのに、
どうせりーじゃないのに言
でおもしろかったです。

○でてきた男の子は、りんご
すぎていて、なんかおもしろいなと思いました。

○お話でてきた子は、「もしかしたら…もしかしたら…」と、どんどんつづいていった。最後は、けっ
きよく「おいしいかもしれない」で終わったのがおもしろい。



ごかもしれ
るかもしれ

のにへんし
した。

かもしれな

なかみはぶ
っていたの

の事を思い

●成果と課題

★3年2組担任より

○3年では、何を書いたらよいか迷う子どももいたので、感想か新しい発想か、書く視
点をはっきりさせたほうがよい。

例) 低学年「絵本の中で一番気に入った『～かもしれない』を書こう。」

高学年「作者が思いつかなかった、あなたの新しい発想を書こう。」

★4年4組担任より

① 4年では、カードに書くことを感想か発想か指定しなかったことで、児童が自由に記
述できた。

② 絵本が小さくて絵が見にくかったので、集めて座らせたほうがよい。

③ 興味を持った子もいたので、実際に貸し出しができればよかった。

○「～かもしれない」という様々な発想が出てくる絵本なので、子どもたちが続きを楽し
みに聞くことができた。

○時間内に、友だちの考えを聞いたり自分の考えを伝えたりする時間を確保するよう
にしたい。

●読み聞かせに使用した図書

ヨシタケシンスケ(2013)『りんごかもしれない』ブロンズ新社
(第6回MOE絵本屋さん大賞2013 第一位)